

茨城県指定史跡

十五郎穴

(十五郎穴横穴群)



茨城県ひたちなか市教育委員会



概要

十五郎穴(横穴群)は、東中根の台地緑辺部に露出した凝灰岩の崖面を掘込んで築かれた古代の墓群です。

いくつかのまとまりを形成しており、指洪支群・館出支群・笠谷支群と呼んでいます。その広がりなどから判断して、総数では300基を超すと考えられています



調査時の18号横穴(上)と17号横穴(下)

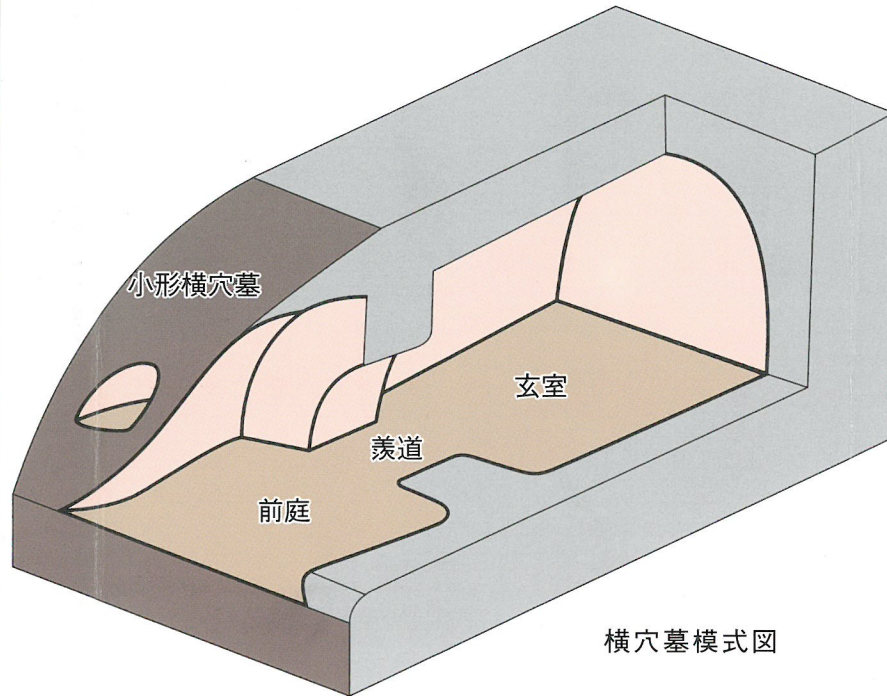
十五郎穴

茨城県指定史跡
(十五郎穴横穴群)

構造

横穴墓は遺体を埋葬する「玄室」、玄室へ通じる「羨道」、入り口前の「前庭部」に大きく別けられます。玄室にはいくつかのタイプがあり、埋葬方法に差異が想定できます。羨道入り口は大きめの蓋石で閉じられ、さらに礫や土砂で埋められていました。

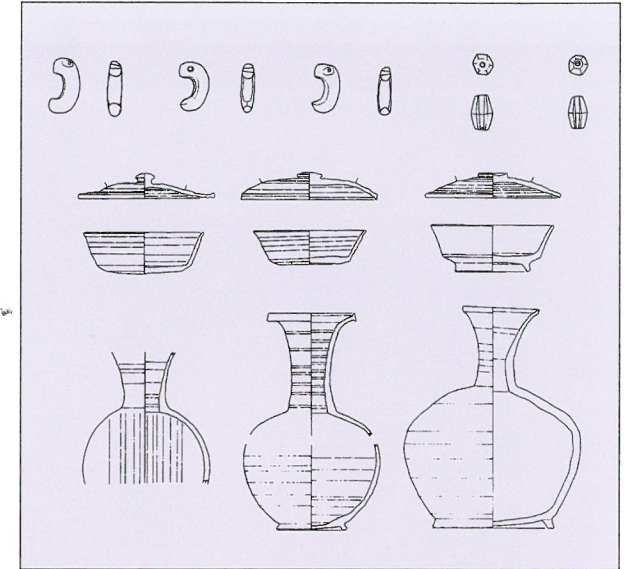
規模にも大小の差があります。小形の横穴は小児骨が出土したことから小児用とわかりました。



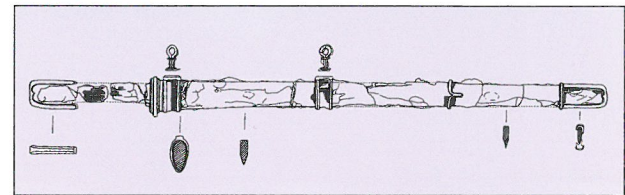
横穴墓模式図

出土遺物

これまでに出土した遺物は銅製方頭大刀、メノウ製勾玉、水晶製切小玉、須恵器(長頸瓶、杯、蓋)などがあります。須恵器の製作年代から、横穴墓群は奈良時代を中心とした時期に築かれたと判断されています



出土遺物(玉類と須恵器)



出土遺物(32号墓出土銅製金具方頭大刀)

研究のあゆみ

江戸時代からその所在が知られており、小宮山楓軒の『水府志料』(文化4(1807)年刊)などに紹介されています。昭和15年には館出支群の一部が県指定史跡に指定されました。その後、昭和18年には石井周

作により『古墳研究』に「中根横穴古墳群」としてその報告が掲載されました。

昭和51年から55年に実施された発掘調査では、119基の横穴墓が検出されましたが、ほとんどが盗掘を受

けていました。発掘調査を実施した調査区は、テントにより被覆し保護されています。